

博物館だより

No.39

平成21年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

第14回

小学生歴史たんけん 作文コンクール作品募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会 主催
みやこ町教育委員会

楽しみがいっぱいの夏休み。小学生のみなさんは何をして遊びますか? 水泳・キャンプに旅行やスポーツなどなど…考えるとワクワクしますね。

でも、せっかくの長い夏休み、遊んでばかりじゃもったいないですよ。自分たちの住んでいる町や地域の歴史を調べたり、おじいちゃん、おばあちゃんから昔の話の聞いたりして、夏休みだからこそできる「歴史たんけん」にチャレンジしてみませんか?

みなさんが調べた歴史のことを作文にまとめて下さい。

◎小学5・6年生なら誰でも応募できます。

◎自分たちの住む町や地域の歴史、おじいちゃん・おばあちゃんに聞いた昔の話、歴史の本を読んだ感想、旅行先で調べた歴史など「歴史」に関することから内容は何でもOK!

◎作文は400字詰め原稿用紙3枚から5枚程度にまとめて下さい。



応募作品の送付方法

左記の送り先へ個人または学校単位で作品を郵送してください。

作品には必ず、住所・氏名・電話番号・学校名・学年をはっきり書いてください。

送り先

〒824-0121

京都府みやこ町豊津1-22-13
みやこ町歴史民俗博物館内

友の会事務局

締切日

平成21年9月11日(金)

※当日消印有効

結果発表

平成21年10月下旬、優秀賞には賞状・賞品(図書カード)を贈呈します。また応募者全員に記念品をさしあげます。

夏の企画展

不動 IV

向井澄男写真展

当館では7月14日から8月30日まで、故・向井澄男さんの写真展を開催します。

向井澄男さんは、長年にわたり京築地方の祭りや風物を撮り続けた写真家です。平成15年に74歳で亡くなられましたが、平成18年にご遺族より数万点に及ぶ遺作が当館に寄贈されました。

当館では、寄贈された作品のデジタル化を進めるとともに、ガッシリした体型だった向井さんのイメージから「不動」の共通タイトルをつけ、毎年1回企画展を実施しています。第4回目となる今回のテーマ



▲もみから焼き (昭和61年11月・犀川帆柱)

は「昭和」。ちよつとだけ前なのに、なぜだかすごく懐かしい「昭和」の暮らしを、向井さんの写真を通して振り返ります。

●会期 7月14日(火)

～8月30日(日)

●場所 当館展示室

●観覧料 常設展の観覧料で
ご覧いただけます。



▲除雪作業 (昭和43年2月17日・椎田駅前)



▶つくし取り

みやこの歴史発見伝 28

藩名「豊津」の謎

藩名「豊津」

明治二年（一八六九）一月二日

四日、明治政府は、香春藩（田小倉小笠原藩）に対し、藩名を「豊津藩」に改めることを許可しました。これは、その二日前に同藩から提出されていた次のような内容の改名申請を受けてのことでした。

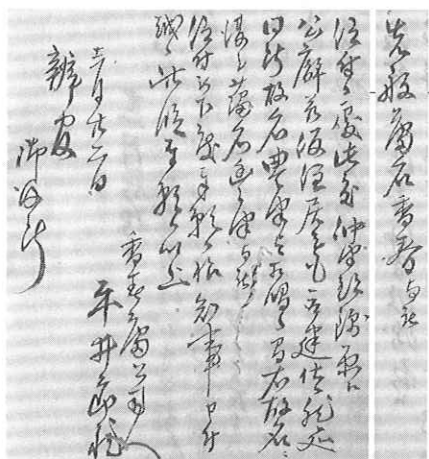
先般、藩名香春と仰せ付けられ候処、この度仲津郡錦原へ公廟ならびに仮住居をも取り建て仕り候、然る処、同所故名豊津と相唱え候間、右故名に復し、藩名豊津と仰せ付けられ下され度願ひ奉り候様、知事申し付け越し候、この段願ひ奉り候、以上
香春藩公用人
平井節蔵

十二月二十二日

弁官御役所

（藩庁御造営別記）

この申請によれば、新しい公廟（藩庁）と藩主の仮住居を建設した仲津郡錦原（現みやこ町役場豊津支所周辺を中心とした台地）は、故名を「豊津」と言ったので、その名にちなみ、藩名を「豊津」にしたい、



▲藩名「豊津」の申請（「藩庁御造営別記」）

というのです。政府はこの申請書に「願ひの通り」と記した付箋を付けて返却し、藩名変更をすんなり許可したのでした。

虚偽の申請

が、しかし。実はこの申請書にある「故名豊津と相唱え候」というのは史実と異なります。古代以来、いかなる歴史書を紐解いても、当地方に「豊津」なる地名が存在したことは一度もありません。「豊津」の名は、この明治二年一月の藩名変更申請において、初めて登場したものののです。しかも、その名の由来も全く不明で、俗に「昔この近辺に豊かな港（津）があったから豊津」と説く向きもありますが、歴史上、豊津に「豊か



▲豊津藩印（錦陵同窓会所蔵）

な港」などあった事実はありません。

明らかに、「故名豊津と相唱え候」とは虚偽なのですが、そんなこととは知らない政府は、「豊津藩」をそのまま許可したのでした。

まぼろしの「長峡藩」

実は、東京の香春藩公用人（留守居役）と国元にいる藩重役との通信文から、この「豊津藩」の申請を提出する一ヶ月ほど前、新しい藩名を「長峡藩」で申請しようとしていたことが分かっています。「長峡」は『日本書紀』の景行天皇紀に登場する豊前国の県（朝廷が設定した地方行政単位）の名前です。明治政府は、土地々々の旧名などによって藩名を変える希望があれば申請するように布達していましたが、おそらく、「長峡藩」で申請しようとしたのは、この布達にもとづき、『日本書紀』を参照してのことだったと考えられます。しかし結局は、『日本書紀』由来の「長峡藩」は止め、古名を偽った「豊津藩」で申請す



▲豊津藩庁跡（現みやこ町豊津町堂グランドー帯）

とになったのです。政府にバレたら、タダでは済まされない可能性があったにもかかわらず、そのような虚偽の申請をした理由は未だに分かっていません。

藩の再起をかけて、明治二年を中心として、文字どおり突貫工事で藩庁建設が進められるのです。

その過程で行われた藩名「豊津」の申請は、ささやかながらも、かつての敵・長州を含む新政府へ向けた「静かな反抗」だったのかもしれない。なぜ「豊津」？

前述のように、突如として登場した「豊津」は、その由来が全く不明ですが、「豊前国仲津郡」（明治二九年まで、行橋市の一部及びみやこ町犀川地区・豊津地区は仲津郡に含まれた）の「豊」と「津」をとって「豊津」としたとする説が最も有力です。あるいは最後の藩主・小笠原忠忱の幼い頃の名前・豊千代丸から「豊」の字をとったとする説もあります。また、明治二年の一時期、新藩庁建設地周辺を「豊岡」と通称していたことが近年明らかとなりました。そのことが「豊津」を考案するのに影響したことも十分考えられます。あるいは、これらいくつかの意味合いを掛け、命名したのかもしれない。いずれにせよ、「豊津藩」と名乗る許可が下りた時、藩の関係者は何を思ったのでしょうか。きっと、胸のすく思いだったのではないのでしょうか。

（川本英紀）